

令和7年度 自己評価計画に対する最終報告書

石川県立宝達高等学校			重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	最終評価
1	主体的・継続的に学習に取り組む態度を育み、学力の向上を図る。	①	授業に臨むときの基本的な姿勢や規律ある学習態度の定着を図る。	[教務課] 進路指導課 各教科 各学年 若手研修 コーディネーター	「学習規律（学びの4か条）を守っている」と答えた生徒の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	生徒調査(12月) あてはまる(50.0)＋少しあてはまる(42.1)＝92.1% 達成度:C (R7.7. 91.6%) R6.12. 91.6% R5.12. 92.1%	学びの4か条については、90%以上の生徒が達成できているので、今後も意識づけと習慣化を図っていききたい。特に授業開始時の挨拶は年間を通して継続できるよう働きかけていく。
		②	Chromebook等を利用して、生徒の実状（習熟度等）や進路希望に応じた学習課題を提示する。		授業外学習時間が60分以上の生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	生徒調査(12月) 120分以上 7.9% 60～120分 18.4% 60分以上合計 26.3% 達成度:D (R7.7. 31.3%) R6.12. 29.2% R5.12. 51.1%	授業外の学習時間が少ないことは、毎年の課題となっている。今年度の結果で60分以上勉強している生徒の割合が減少している。自宅学習の課題内容を検討し、各教科で生徒が取り組みやすく達成感をもちやすい課題設定を行っていく必要がある。
		③	各種研修や互見授業、授業参観等を通して、教員の授業実践力を高め、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図る。		「生徒同士の学び合いや発表等の機会を積極的に設けている」と評価する教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	教員調査(12月) あてはまる(44.4)＋少しあてはまる(33.3)＝77.7% 達成度:C (R7.7. 88.9%) R6.12. 88.9% R5.12. 84.2%	生徒同士の学び合いや発表機会を積極的に設ける場面が減っている。学び合いや発表は多くの時間がかかるが、生徒の力の伸長につながり、社会に出てから必要な力にもつながることを、教員が再認識しなければならない。知識のインプットだけでなくアウトプットおよびその後の意見交換等を、授業で積極的に取り入れていく必要がある。
					「授業がわかりやすい」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査(12月) あてはまる(43.4)＋少しあてはまる(51.3)＝94.7% 達成度:A (R7.7. 86.7%) R6.12. 84.7% R5.12. 90.9%	授業が分かりやすいと答えた生徒の割合が増加した。今後は知識の利用を進めるためにも、アウトプット活動に力をいれていきたい。
学校関係者評価委員会の評価				<ul style="list-style-type: none"> 授業外の学習時間を増やすことを目標とするのではなく、個々に応じた学習指導をしていただきたい。大学進学志望の生徒はその志望をかなえており、学習指導の成果は相応に出ている。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針				<ul style="list-style-type: none"> 教員の研修や授業の相互参観を活用し、個別最適な学びの実現に向け、さらに授業改善に努めていく。 			

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	判定基準	備考	
2	キャリア教育の充実及び個に応じた進路指導の充実により、進路実現を図る。	①	段階的に上級学校や関係機関・地元企業との連携を通して、生徒の進路意識を高めて早期に進路目標を設定することができよう支援する。	[進路指導課] 各学年 「進路講話、各種講座、企業見学会等が進路選択に役立っている」と答えた生徒の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	生徒調査(12月) あてはまる(40.8)＋少しあてはまる(46.1)＝86.9% 達成度:B (R7.7. 83.1%) R6.12. 83.3% R5.12. 89.8%	今年度も外部から講師を招き、進路講話やガイダンスを数多く実施してきた。今年度は実施前後に目的などをより丁寧に説明したことで、昨年度より数値は向上した。今後も生徒の進路実現に向けた意識が向上するよう取り組みを進める。 3年生においては、2年生の3学期から多くの時間をかけ計画的に、学年・グループ・個人で進路学習を実施し進路実現を推進してきた。就職を希望する全員が希望の企業に採用内定した。また、進学希望者についても全員が希望の進学先に合格した。
		②	進路ガイダンスとカウンセリングを充実させ、生徒個々の状況を把握し、支援する。また、生徒の希望・適性・能力に合致した進路指導に努める。	生徒の進路実現率が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	生徒調査(年度末) 100% 達成度:A R7.3. 100% R6.3. 100%	
学校関係者評価委員会の評価		・以前から取り組んできたキャリア教育の成果が上がっている。キャリア教育に時間をかけ、考えるきっかけを作ってきた結果である。今後もキャリアについて考える機会を設けてほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・生徒の進路実現のために、今後も目的意識を持った進路学習を行い、生徒にしっかりと意識付けを行う。				

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	判定基準	備考
3 自主自律の精神や自他を尊重する心を持った、心身ともに健康な生徒を育成する。	① 学校内外の日常生活の場面で、TPOをわきまえた判断と行動ができるように指導を行い、社会の一員としての自覚を促す。	[生徒課] 生徒会係 生徒指導係	「自分から進んで、他の生徒や教職員、来客者等に挨拶をしている」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：75% 未満	生徒調査(12月) あてはまる(43.4)＋少しあてはまる(44.7)＝88.1% 達成度:B (R7.7. 84.3%) R6.12. 86.2% R5.12. 86.3%	前年度に毎月行っていたあいさつ運動を今年度は半分に減らし、クラス、部活動、委員会単位で実施した。進んで挨拶できる生徒の割合は88.1%で、来客にもしっかりと挨拶をしている。今後さらに生徒一人一人の挨拶に対する意識を高める働きかけをしていきたい。併せて、進んで挨拶する雰囲気を学校全体で高めていきたい。さらに学校外でのボランティア活動を通して、学校外でも積極的に挨拶できるよう取り組んでいく。
	② 基本的な生活習慣確立のために年間4回「生活実態調査」を実施し、生徒一人一人の生活状況やいじめ等の悩みを把握し指導に活かす。	[教育相談課] 各学年	「生活実態調査の結果を指導に活かし、生活改善や問題の未然防止・早期発見につなげている」と評価する教員の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	教員調査(12月) あてはまる(33.3)＋少しあてはまる(55.6)＝88.9% 達成度:B (R7.7. 83.3%) R6.12. 72.2% R5.12. 89.5%	生活習慣の課題について、全体や個別での指導のほか、保護者懇談会でも相談した。また、学校生活の悩みを持つ生徒への聞き取りを通じ、問題を早期に把握し解決することにつながっていると考えている。生活習慣においては、メディア機器の長時間利用が課題であるため、短縮に向け保護者と協力して働きかけていきたい。
	③ 日常的に美化活動や環境衛生に努め、奉仕の心やものを大切にすることを養う。美化コンクールを通じて、他と協力し合うことの意義を確認し、自主性を育む。		「身のまわりの整理整頓を自主的に実践し、環境整備に努めている」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査(12月) あてはまる(40.8)＋少しあてはまる(42.1)＝82.9% 達成度:C (R7.7. 80.7%) R6.12. 83.3% R5.12. 86.4%	日常の教員からの声かけで、整理整頓を心がける意識が芽生えてきているが、まだ不足している。自他が気持ちよく過ごすためには、一人一人が環境整備に努めることが大切であるということを、全体や個別に話し理解につなげたい。
学校関係者評価委員会の評価	・スマートフォンの利用時間や生活習慣は学年を重ねるとよい方向に変化している。スマートフォン等との付き合い方を学び、充実した生活を送れるようになってほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・生活実態調査等により、生徒の生活習慣を含めた問題を早期に把握して解決につなげる指導をさらに重ねていく。				

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	判定基準	備考
4 地域との連携・協働の取組を充実させ、地域に信頼される学校づくりを推進する。	① 地域イベントやボランティア活動等に積極的に参加し、地域貢献意識を高めるとともに、自己の在り方・生き方を深く考える機会とする。	[生徒課] 生徒会係 各学年	「地域に貢献する活動ができた」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	生徒調査(12月) あてはまる(22.4)＋少しあてはまる(43.4)＝65.8% 達成度:D (R7.7. 60.2%) R6.12. 69.5% R5.12. 70.5%	昨年度よりも肯定的回答の割合は減少した。地域イベントやボランティア活動には積極的に参加しているが、生徒会や地域貢献部を中心に参加していることや、マラソン大会でのボランティア活動がなくなり参加機会が減ったことで、生徒全体の評価が低いと考えられる。多くの生徒が参加して学校周辺の清掃活動も行っていることから、生徒自身が地域貢献活動に参加していると意識が持てるよう、目的の共有を図りたい。
	② 地域資源を活用した活動や学習を通して地域理解を深め、探究する力を育成する。	[教務課] 総務課 進路指導課 各学年 各教科	「探究活動や探究学習に積極的に取り組んだ」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	生徒調査(12月) あてはまる(32.9)＋少しあてはまる(53.9)＝86.8% 達成度:B (R7.7. 79.5%) R6.12. 84.7% R5.12. 85.2%	主に総合的な探究の時間に、地域理解を意識した取り組みを行っている。特に1年生では震災学習を行い、地域資源の大切さを意識できたと思われる。2年生や3年生での取り組みでも、地域の魅力の発見や地域課題の解決に取り組むような姿が見られた。
	③ ホームページや広報誌を通じて、本校の教育活動や生徒状況等の情報を発信する。	[総務課] 各学年 各課 各教科 部顧問	「配付物やホームページ等による情報が、教育活動の理解や生徒状況の把握に役立つ」と評価した保護者の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	保護者調査(12月) あてはまる(61.0)＋少しあてはまる(35.1)＝96.1% 達成度:A (R7.7. 96.1%) R6.12. 100% R5.12. 98.7%	保護者からの評価は高いが、部活動の様子についてはもっと知りたいという意見もあることから、今後は部活動や学校行事での生徒の様子や保護者が知りたいと思う内容を増やすとともにタイムリーに発信していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・ ボランティア活動は、生徒の人間性を大変高める活動である。ぜひ積極的に参加するように導いてほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・ 地域貢献活動に参加している自覚を促すとともに、積極的にボランティア活動に参加するように、生徒への働きかけ方を工夫していく。				

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	判定基準	備考
5 危機管理意識を高め、緊急時にも適切に対処できる学校組織の構築に努める。	① 防災訓練等を通して、避難のしかたや自分の身を守る行動を習得し、危機管理意識を高める。	[総務課] 各学年 各課 各教科	「災害が起こった際に、適切な行動をとることができる」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	生徒調査(12月) あてはまる(43.4)＋少しあてはまる(43.4)＝86.8% 達成度：B (R7.7. 86.7%)	[R7より追加の項目] 能登半島地震で意識が高くなっている。 11月の原子力避難訓練では、原子力災害時の対応について事前学習を行い、事後指導ではクロムブックで内閣府の防災シミュレーターを使って学習した。今後も避難訓練では事前・事後学習を充実させ、実際の行動につなぐことができるように努める。
学校関係者評価委員会の評価	・生徒の災害に対する意識は高まっている。災害が身近にあるものだと自覚してからの防災訓練は意義深い。多面的に防災について学ぶ場があるとよい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・今後も防災訓練時には、多面的に災害について考える機会を設け、防災訓練以外の特別活動や授業でも学ぶ機会を設けていく。				

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	判定基準	備考
6 時間管理を意識しながら、組織的で効率的な働き方に努める。	① 限られた時間を意識した働き方を行う。若手教員に対するサポート体制を維持する傍ら、若手教員にも責任ある企画や運営に参加させるなど、業務の平準化を図る。	[各課主任] [学年主任] [若手研修コーディネーター]	業務の割り振りや効率化を図ることができた各課主任・学年主任が、 A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	教員調査(12月) あてはまる(33.3)＋少しあてはまる(55.6)＝88.9% 達成度:B (R7.7. 100%) R6.12. 71.5% R5.12. 100%	昨年の同時期よりは業務の効率化を図られていると感じる主任の割合が増えている。今年7月の調査時にはすべての主任が効率よく業務を行っていると回答した。主任が業務の管理をしやすいように、さらに組織的な連携を進めていかなければならない。
			計画的・効率的に業務を遂行することができた教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	教員調査(12月) あてはまる(44.4)＋少しあてはまる(44.4)＝88.8% 達成度:B (R7.7. 94.4%) R6.12. 88.9% R5.12. 100%	88.8%の教員が、業務に計画的に当たることができていると感じている。業務遂行にあたり教員が疲弊してしまわないように、互いに声をかけ、フォローしあえる雰囲気をつくっていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		・教員数が多くはない中で、教育を全うすることは大変である。教員が少ないからこそ協力して進めていく意識を持ち、達成して欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・教員一人一人が、多忙感を持たずに業務遂行できるように、教員同士のサポート力を高められるように工夫していく。			